

子供の心をつかむ (上)

アンディ美湖

時は1921年、ルイス ローウェス氏がニューヨークのスィングスィング刑務所の所長をしていた時のことです。そこは、極刑犯罪人が送られる刑務所です。もちろん誰もがルイスの奥さんキャサリンに、受刑者とのコンタクトは避けるようにと、忠告しました。しかし、さっそく彼女は全ての忠告とは反対に刑務所内でのバスケットの試合に自分の三人の子供を連れて行きました。こうして、キャサリンは受刑者たちと知り合いになる機会を得、それからの歳月、彼女は受刑者たちにあふれんばかりの親切をし、思いやりを注いだのでした。彼女は盲目の殺人犯に点字を教え、耳の不自由な受刑者と話ができるように、手話学校にも通いました。しかし、1937年、惨事が起こりました。キャサリンが自動車事故にあい、亡き人となってしまったのです。翌日、夫のルイスが刑務所に来ていないのを見て、このことを察知した受刑者たちは、刑務所の門の所に集まって、亡くなったキャサリンを思って嘆き悲しみました。彼らの痛烈なる嘆き悲しみを見た所長代理は、まさに驚くべき行動を起こしました。刑務所の門を開け、彼らがキャサリンに最後の敬意を表することができるように、彼女の家まで歩いて行くことを許したのです。監視をつけずにです。「夕方までに帰ってきなさい。」と、所長代理は指示を出しました。この、心かたくなだった犯罪者たちはどうしたと思います？なんと全員、帰って来たのです。一人残らず。

キャサリン ローウェス夫人は、亡き人となっても、彼らの心をつかんでいたのです。こんなことなど、まず起こりそうにないような人達の心をも。社会の最低階級に属する人間が、彼女には逆らうことができませんでした。さて、もちろん、私たちの子供たちは冷酷犯罪者ではありません。そのように感じることもたまにはあるかもしれませんが、子供たちには、途方に暮れさせられます。どうしてこんなに努力しているのに、つまずいてしまうのかと私たちは首をかしげます。おそらくこれは、このキャサリンが強く前面に打ち出した、人の心をつかむ逆らいがたい受容の力というものを、私たちが顧みないで忘れてしまっていたからだと思うのです。まさしく、これは神様のやり方であります。これこそ今もなお、私たちを引き付けるもの、どんなに遠くに迷い出ても私たちを心のふるさとへと連れ帰るものです。

もし、私たちが、現代のこの不吉な状態を無視するなら、今に大きな不幸が訪れます。親が自分の子供の心をつかまないうままではすまされない時代に私たちは生きています。明らかに、子供の心をつかむ多くの力が働いているからです。少女による犯罪はピークに達し、警察で記録しはじめた30年前からみて、記録史上最高となっています。今や強盗の半数、暴力による犯罪の3分の1は青少年によるものです。

性犯罪を犯して逮捕された少年の数は2年前に比べて2倍に急増しました。東京で麻薬を手に入れるのは今やニューヨークやパリですのと同じくらい簡単なのです。援助交際に関わっているティーンエイジの少女たちは約5万人にも上っています。これは、日本のすべての高校のクラスに一人いるということです。公立学校の状態も要注意です。小学校と中学校の教師44%が学級崩壊を目のあたりにしたことがあるとの報告も出ています。

私たちを破滅に導こうとする多くの霊的な力が働いているのです。敵はまさに、その巧みな戦略のターゲットとして、子供たちにねらいを定めました。その手法は幾万とありますが、おもには、親から子供を一人ずつ引き離し、親子のきずなを弱め、最終的に彼らの心を取りこにすることだと、私は確信しています。

私は六大学で伝道をしていた時、早稲田の理工学部で働いていました。あれは1987年、座禅を組んで空中に浮かんだ長髪の、ある宗教指導者のポスターがキャンパス内のあちこちに掲げられ、人の目を引いていたのを覚えています。日本のやがて偉大な科学者にならんとする学生たちを前にして「偉大なる超自然的パワー」を約束したアピールでした。当時、私はあの運動にこれといって特に注意を払うことはありませんでした。しかし、彼らのキャンペーンは早稲田で大成功の結果をおさめ、その時加入した者たちは、後に、オウム真理教を立て起こす大きな力となっていったのです。そのポスターにのっていた男、麻原彰晃は彼らの心をつかんだのです。

東北に住む400人の親たち（そのうち100人がクリスチャン）にアンケートをとったところ、「あなたの子供の心をつかむには」というトピックに、非常に大きな関心が寄せられていることがわかりました。親たちは、この必要性を直感的に感じてはいるのです。ただ、それではどうすればいいのかというのが、しばしばわからないでいるのです。

それでは、キャサリン ローウェスはどのようにして人の心をとらえましたか？

イエス様がされたのと同じ方法です。彼女は人々の行動やふるまいにかかわらず、まじりけのない愛でもって、彼らを愛しました。もし、人生の中で一つ、私たちがとりわけて熟練しなくてはならないものがあるとすれば、それは愛です。

これは、人生において最も大切なことです。（第1コリント13章）しかし、この愛とは、特に私たちの子供に関して言う場合、実際にはどういうものを意味するのでしょうか。明らかに、子供のために親がしなくてはならない二つのこととは。

一つはまず、子供を理解することです。二つめは子供を喜びとしていることです。ここでは最初の方を考えていきましょう。二番めの方は次の号でお話しさせていただくことにします。

子育てにおける一番のアドヴェンチャーといえば、神様が、私たちの子供をどんな人間につくり上げようとしておられるのかを発見することです。（そしてまた、その働きに加えていただくことです。）子供は一人一人御手の中でユニークにつくりあげられた傑作

です。子供は、一人一人ちがいます。ですから子育ての経験もどれも一つ一つ異なります。私は「将来の魂一新しい時代のための子育て」の中で、神様が子供たちの中に植えられる可能性のある60種類のさまざまな能力というものを概説しました。あなたの子供は手先が器用ですか？ 分析力がありますか？ 想像力に長けていますか？ コミュニケーションがうまくとれますか？ ユーモアにあふれていますか？ 敏感な子ですか？ 御霊の賜物は何ですか？ これらを発見し、そして子供がそれを自分でも発見することができるように手助けをすることは、子育てにおいて得られる喜びです。これが、ホームスクーリングをすることにおいて特別に与えられる利点です。親は子供とともに歩いていくうちに、子供のことをより詳しく観察することができます。また、公立の学校はある一定の能力の価値を過大評価し、その他のこと（あなたの子供が持っているのは、まさにこれかもしれません）は、どうでもいように扱う傾向があります。これは、（子供に）心の葛藤とつまずきを引き起こしてしまうこととなります。

愛の感じ方も一人一人異なります。愛を伝える方法はいくつもありますが、その子の人格にぴったりあった方法で伝えているのでしょうか。あたたかい言葉をとおして愛を感じる人は、「アイラブユー（大好きよ）」という言葉聞く必要があります。スキンシップがたくさん必要な人もいます。手をつなぐとか、背中をさすってもらう、抱きしめてもらう、というのが、最優先します。それから、また、プレゼントをもらうことによって愛を感じる人もいます。彼らの場合、自分の誕生日にプレゼントが無いとなると、がっかりしてしまうのです。面白いことに、私たちは自分の好きなやり方で相手に愛を示そうとしがちですが、それは、相手がありがたく思うものではなかったりすることもあるのです。親はおもちゃを与えることによって愛を伝えようとしているのに、子供は実は抱っこしてほしいというなら、それはなんとという悲劇でしょう。欧米の国では、女の赤ちゃんの方が男の赤ちゃんよりも、最初の一年で、平均して5倍多くキスと抱っこをしてもらっています。奇妙なことに、精神科クリニックで治療を受けている子供の割合は、女の子よりも男の子の方が5-6倍うわまわっています。愛されていると感じていない子供は、不必要なフラストレーションと破壊（行為）の人生を歩むこととなります。しかし、私たちクリスチャンは親として、父なる神様を反映する者であるべきです。天のお父様は私たちの必要の一つ一つを満たすために、あらゆる方法をとおして御自分の愛を伝えて下さるのです。驚くべきことではありませんか。子供に「（お父さん／お母さんがあなたのこと大好きだって、どうしてわかるの？）ときいてみるのもいいでしょう。

もちろん、これはすべてわかりきったことです。私たちは自分を理解してくれる人に引かれます。誤解されたと思う時、どんな気持ちになりますか？ 溝が出来はじめます。そして、その人に対し、心を閉ざしはじめます。そういう人に対

して、疑い深くなり、否定的な感情を抱きはじめます。これこそ、まさに、あなたの子供があなたに対してそういう感情を抱くようにと敵が願っていること、そのものなのです。

敵の、孤立と破滅の策略にま

んまと乗せられてしまわないように気をつけましょう。敵はちょうどライオンのように、小馬を群れからいったん離して、それから殺しにかかります。これと反対に、心から愛してくれる人に心をつかまれること以上に素晴らしいことはありません。私たちの子供たちはそれを受けるに価するものなのです。

プロフィール：

アンディ美湖

1947年に日本に宣教に来た両親を持つ宣教師二世。クリスチャンアカデミージャパンとハワイ大学を卒業。ウェスタン神学校にて、神学修士号取得。現在、ジョージフォックス神学校にて、ミニストリーの博士号（特に障害児を持つ家庭へのミニストリーに重点をおいたもの）のため勉学中。キャンパスクルセードのファミリーライフジャパンディレクター。ホームビルダーズシリーズの編集長を務める。「;将来の魂—新しい時代のための子育て」を執筆。純子夫人と4人の子供がいる。

(訳：Matsuda Taeko)